関連学会協議委員会報告

関連学会協議委員会担当理事・委員長　徳永　昭

はじめに、日本創傷治癒学会は、皮膚のみならず諸臓器の損傷・修復に関する基礎的研究から臨床応用に至る研究を横断的に推進し、学術活動を通じて社会に貢献することを目的として設立された創傷治癒研究会を母体としている。石井は、「様々な分野を専攻する研究者が一堂に会して先進の研究を行うだけでなく、幅広い討議を通じて創傷治癒研究における自身の立ち位置を考える機会を提供している」と述べている。基礎医学と臨床医学、各研究室間にある垣根を取り払い、領域を越えて創傷治癒の問題解決に向けて邁進することが必要と思われる。

一方、創傷治癒研究・臨床をメインテーマの一つとして活動する学会・研究会を関連学会ととらえ、これらの学会との交流を推進することを目的として関連学会協議委員会が設けられている。そこで、本項では、本委員会の各委員の意見を中心として紹介し、今後の方向性について展望したい。

(1)これまで創傷治癒に関連する演題を中心的あるいは重点的にとりあげている学会を関連学会と定義すると、WHS、ERTS、日本外科学会、日本消化器外科学会、日本臨床外科学会、日本形成外科学会、日本再生医療学会、日本褥瘡学会、日本結合組織学会、日本創傷・オストミー・失禁管理学会、日本下肢救済・足病学会、日本創傷外科学会、フットケア学会、潰瘍病態研究会、マトリックス研究会、日本高気圧環境・潜水医学会などが挙げられ、JSWHとKWHSとの日韓合同シンポジウムについては、現在、交流が行われている。

(2)交流強化のために、具体的な目標を設定する。上記の学会と共催または合同開催の形でシンポジウム、ワークショップなどの開催を計画する。そのために交流の意志のあることを特定の学会に伝達し、実現に向けて交渉を開始する。

(3)創傷治癒に関連した最新情報を持つ個人のレベルから交流を開始し、個人交流から学会レベルの交流を目指す。

(4)課題の多いストーマケア、再生医療、難治性潰瘍治療、SSIと創傷治癒障害などを重点交流候補と定め、毎回の学術集会において重点演題として取り上げていく。

本委員会の目的は、患者さんが抱える様々な病態を解決するために横断的に協力体制を構築することや、最新の研究成果を臨床応用に向けたインフラ整備につなげる期待があります。会員各位には関連学会協議委員会の活動に対するご意見、情報をぜひともお待ちしていますので、事務局または徳永（E-mail: tokunaga@nms.ac.jp）までご連絡いただければ幸いです。

SINCE 1971
JSWH
The Japanese Society for Wound Healing
NEWS LETTER
日本創傷治癒学会
2010.4
No.56

●日本創傷治癒学会事務局
〒160-8582
東京都新宿区信濃町35
慶應義塾大学医学部外科学教室内
tel. 03-3353-1211
（内線62269）
fax.03-3353-2681
e-mail : info@jswh.com
URL : http://www.jswh.com